

時間割コード	G2B41116	開講年度	2026				
授業題目	原文で読むドイツの日常と文化【EA】					担当教員	松岡 幸司
英文授業名	German Cultural Studies (German Intermediate Level)						
単位数	2	講義期間	前期(随時)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	全(ドイツ語初級レベル修了を条件とする)
講義室				授業形態	e-Learning	遠隔授業科目	該当
備考							
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	大学DP 学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力					・中級レベルのドイツ語読解能力を身につけることで、ドイツ語を通してしか得られない多様な文化を受容することができるようになる。 ・中級レベルのドイツ語読解能力を身につけることで、日本語の感覚ではなく、ドイツ語の感覚でテキストを読み書きする能力を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム	グローバルコア人材養成コース ・ B A S I C (国際理解)						
(4)授業の概要	授業のねらい 既習言語であるドイツ語を実際に用いて、ドイツ語を通してしか得られない現代ドイツ語圏の日常・文化生活に触れ、異文化に直に触れることにより、より高度な国際理解感覚を身につけつつ、ドイツ語運用能力を高める。 到達目標： - 辞書を用いれば、現代ドイツのアクチュアルな文章を読むことができるレベルのドイツ語読解能力を身につける。 - 文章を読む際に、日本語の感覚ではなく、ドイツ語の感覚で読む習慣を身につける。 - 日本語に頼ることなく、外国語から直接外国の情報を入手し、それを処理する国際理解感覚を身につける。 - 独検2級に合格するドイツ語力の習得を目指す。 授業の概要 ドイツ語読解能力について、既習事項とその習熟度を自ら理解し、統合的に用いる能力を身につけるトレーニングを行う。また、外国語の文章を読む際にも問題になる異文化理解は、日本語の感覚だけで読もうとしても書き手の論や感覚を受けとめることはできない。自分がすでに持っている情報で処理しようとするのではなく、わからないことは納得するまで調べ、自分の中の国際感覚の奥行きを広げる意識を身につける。 毎回の授業は以下のように進む。 - 資料をダウンロードする(火曜日までにアップされる) - 授業動画を視聴する(木曜日午後から視聴が可能) - 確認課題に取り組む(翌週月曜日までに提出)						
(5)授業のキーワード	ドイツ語読解能力 グローバル感覚 異文化理解 課題・レポートのフィードバック						
(6)授業計画	学期の前半は、1年次の学習事項の復習と補足を行いつつ、読解に慣れていってもらう。Lektionが終わるごとに確認の小テストを行い、自己確認・復習に役立ててもらう。 後半では、「学習のために作られたのではないドイツ語文」を読み、ドイツ語のテキストに慣れていってもらう。 10回目までは、やや難しい既習事項の復習や補足を行う。 - 導入：オリエンテーション、既習事項の復習確認 2-4. 形容詞、序数、比較級・最上級 5-7. 受動態、関係代名詞 8-10. 接続法 11回目以降は、ドイツ人向けに書かれた易しめのテキストを実際に読む。 11-15. 読解トレーニング (15回目の授業時に、授業アンケートの指示をします。)						
(7)成績評価の方法	- 確認課題 [30%] - 確認小テスト [40%] - 期末課題 [30%] これらを総合して評価する。						
(8)成績評価の基準	既習事項の習得度を下記のような方法で確認し、評価する。 - 確認課題：毎回の授業の終了後に取り組む「確認課題」により、授業内容の理解度と習得度を確認する。 [30%] - 確認小テスト：各課や読解テキスト終了後に行い、当該課やテキストの内容の理解度と習得度を確認する。 [40%] - 期末課題：セメスター全体の内容の理解度と習得度を確認する。 [30%]						

(8)成績評価の基準	見てわかるように、学習プロセスの各段階における理解度から達成目標への到達度をはかる。これらを総合して、下記のように評価する。 90点以上：十二分に授業の達成目標および到達目標の水準に達した 80点以上：授業の達成目標および到達目標の水準に達した 70点以上：ある程度、授業の達成目標および到達目標の水準に達した 60点以上：最低限、授業の達成目標および到達目標の水準に達した
(9)事前事後学習の内容	・毎回の授業の後には必ず復習を行い、自分の理解度を確認すること。「復習」というのは「理解できた部分とできなかった部分をはっきりさせる」ために行うものである。 ・そのため、毎回授業外学習の課題に取り組んでもらう。これにしっかり取り組んでいることを前提として授業は進んでいくため、必ず取り組むこと！ ・特に学期の後半は毎回ドイツ語の文章を読み進めるので、その予習と復習をしっかり行う必要がある。 ・授業で扱ったテキストのトピックスについて、自ら積極的に知識・視野を広げる姿勢が求められる。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。
(10)履修上の注意	【初級レベルのドイツ語運用能力を身につけていることを前提とする！】 ・理解度・習得度の低かった事柄については、次回の授業、メール、オフィスアワーなどを活用して、必ずしっかりと確認すること。 ・辞書は毎回必携。 この授業は、【ドイツ語中級レベル】の内容である。 講義科目とはいえ、毎回受講学生には授業内での課題への取り組みや発表に関して積極的な参加を求める。 この授業は、授業ビデオを毎週見ることによって授業に参加し、課題を提出する、という形式で行われる。毎週欠かさずビデオ受講することが必須となる。 毎回課される【確認課題】をはじめとした課題に取り組んで提出することで出席とみなす。 受講希望学生は、【あらかじめ、メールで連絡】をし、受講方法についての指示を受けておくこと！
(11)質問、相談への対応	オフィスアワー：木曜日3限 研究室の場所：共通教育第1講義棟3階南 メールアドレス：maulwurf@shinshu-u.ac.jp オフィスアワーの時間に来れない人は、メールにて相談してください。 その他にメールやWeb上のフォーラムを活用してください。
(12)授業への出席	・全ての回に出席することを基本とします。 ・授業を4回以上欠席した場合、この授業の達成目標に到達することができないため、成績評価の対象外（不可）となります。 ・感染症報告システムに登録し「出席停止」と判断され、授業に出席できなかった場合は欠席とはみなしません。 ・「学修の補充の対象とする事由」（『共通教育履修案内』参照）により、授業に出席できなかった場合は欠席とします。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	・「出席停止」により授業に出席できなかった場合は、健康安全センターからのメールを担当教員に転送して、学修の補充に関する指示を受けてください（『共通教育履修案内』参照）。 ・「出席停止」ではなく「学修の補充の対象とする事由」（『共通教育履修案内』参照）により出席できず、補充を希望する場合は、所定の方法（『共通教育履修案内』参照）により、共通教育窓口で申請してください。（この場合は、出席扱いにはなりません。）
【教科書】	・中島・平尾・朝倉：改訂版 必携ドイツ文法総まとめ。ISBN-13: 978-4560004920。白水社（2003）。¥1,760- その他、必要に応じて適宜資料を配布する。
【参考書】	・熊谷哲哉・大喜祐太：Sei froehlich - Deutsch lernen mit 12 Themen -.（ミニマムドイツ語・フェアシュテン）。ISBN-13: 978-425525485-2。朝日出版社（2025）。¥2,530- ・清野智昭：中級ドイツ語のしくみ。ISBN-13: 978-4560066539。白水社（2008）。¥3,080- その他、授業時に適宜紹介する。